

図2 濃尾断層に直交する方向の鉛直断面図. 赤星は濃尾地震の震源,灰色点は微小地震,灰色線はフィリピン海プレートの上部境界をあらわす.



図3 Q 値の水平方向の不均質分布



Time delay 0.05 s

図 4 S 波スプリッティング解析結果 . S 波の偏向方向(Bar の向き)と異方性の時間差(Bar の長さ).





図5 濃尾地震断層周辺域でのネットワークMT観測点分布図とその結果

白四角内に地名の入った,20交換所エリアでの観測を実施(異常位相が観測されている領域を薄赤色で示す). 防災科学技術研究所による広帯域 MT 法観測点(3)線)を赤三角で示し,前キャンペーンである跡津川断層周 辺域での観測においてデータを取得した地点を白抜きの地名で示す.灰太線は,濃尾地震推定地震断層を示す.ま た,直流,交流電化路線をそれぞれ赤,オレンジ線で示している.KWD123(左下),NEO134(右下)各領域に おいての impedance tesor 非対角成分の MT-sounding 曲線.上側に見かけ比抵抗を示し,下側に位相を示す.Zxy を青,Zyx を赤で示す.KWD においては Zyx に異常位相 (Ichihara & Mogi, 2009) が認められる.



図6 応力テンソルインバージョン解析結果.

応力テンソルインバージョン解析に使用した 2009 年 5 月から 2010 年 10 月までの M1.5 以上, 深さ 30km 以浅の 地震約 130 個の震源メカニズム解(上).(左下) Townend and Zoback [2006] による最大水平圧縮軸の方向.青・ 緑・赤は各々正断層・横ずれ断層・逆断層を示す(右下)今回得られた応力テンソルインバージョンの結果. が 1, が 2, が 3 である.